

第3次教育振興基本計画の基本理念及び基本目標の考え方について

1 第2回部会の基本理念及び基本目標の意見等について

(1) 基本理念

ア 第2回部会で提示した事務局案

(ア) 案1『未来を担う人づくり』（第1次・第2次から継承）

(イ) 案2『未来を創る人づくり』

イ 第2回部会で出された意見等（抜粋・要約）

No.	基本理念	意見等
1	未来を担う人づくり	・委員の意見を聞き、重要な位置付けであると感じた ・受動的な印象を持つ ・重く背負わせられる印象を持つ
2	未来を創る人づくり	・子どもたちにとって「担う」より「創る」がイメージしやすいのではないか ・主体的・能動的でウェルビーイングの理念につながる ・「創る」の方が「未来」という言葉と相性が良い ・民間企業では、新しいものを創り出すという意味で、漢字の「創る」が一般的に使われる
3	未来をつくる人づくり	・これまであったものを引き継いで創っていくという意味を込め、ひらがなの「つくる」にすると印象が広がる ・ひらがなの「つくる」の方が市民にとって親しみやすいのではないか ・大人にとっても「つくる」力を育てることは重要
4	その他	・未来を生きる人づくり

(2) 基本目標

ア 第2回部会で提示した事務局案

- (ア) 案1『挑戦・共生・創造』（第2次から継承）
- (イ) 案2『挑戦・協働・創造』
- (ウ) 案3『安心・協働・発展』
- (エ) 案4『自らを育む・つながる・築く』

イ 第2回部会で出された意見等（抜粋・要約）

No.	基本目標	意見等
1	挑戦	・失敗をしても助けてもらえる印象
2	共生	・近い言葉では「調和」も良い言葉
3	安心	・重要だが、「安心・協働・発展」の主語・述語の関係をみるとズレが生じている印象 ・自らではなく、提供されるもの
4	自らを育む	・目的語があり、動詞だけでまとめることができたなら良い ・第1次計画の目標である「ひらく力」の方が良い ・難しく感じる部分がある
5	つながる	・つながりの希薄な社会で、こどもからお年寄りまで、どうつながっていくのか重要な点 ・過去と未来をつなげるという意味で使うこともできる ・非常に重要なこと ・スポーツは、密接な関係にある ・似た言葉で、「和」「誠」「協調」が考えられる ・一番重要な言葉であり、やわらかく、親しみやすい言葉だと思うので、基本目標の真ん中を「つながる」に代えても良い
6	その他	・社会教育では、「学ぶ」、「つながる」、「結ぶ」という三つのキーワードがある ・「結ぶ」も様々な意味があり、良い言葉である ・第2次教育振興基本計画の基本目標を継承しても良い ・おおむね基本理念を継承するなら、「挑戦・共生・創造」を継承しても問題がない ・社会教育行政の取組の方向性として、「ひらく」、「つながる」、「むすぶ」、「つくりだす」機能を様々な領域で発揮することが求められているという記載があり、これらも検討の候補

2 基本理念（案）

第2回部会の審議を踏まえ、次の案で検討を進める。

※参考資料2 県内他自治体の教育振興基本計画の基本理念等について

※参考資料3 第3次教育振興基本計画の基本理念等に対する教育振興基本計画庁内推進委員会の意見について

案1『未来を担う人づくり』（第1次・第2次から継承）

・第2回部会資料4の設定理由と同様

案2『未来を創る人づくり』

・案1と同様

案3『未来をつくる人づくり』

・案2を踏まえ、新しいものを生み出すという意味に加え、これまでであったものを引き継いで創っていくなどの意味を含めることを表現

案4『想いをつなぎ、未来をつくる人づくり』

・案3に加え、先人の理念や英知、想いを受け継ぎ、未来へ継承しながら発展させるという要素を明確に表現
・国教育基本法前文に「我々日本国民は、たゆまぬ努力によって築いてきた民主的で文化的な国家を更に発展させる」の記載あり

案5『歴史をつなぎ、未来をつくる人づくり』

・案3に加え、過去の知恵や経験を未来へ継承しながら発展させるという要素を明確に表現
・国教育基本法前文に「我々日本国民は、たゆまぬ努力によって築いてきた民主的で文化的な国家を更に発展させる」の記載あり

【比較表】

参照・考慮の視点	案1	案2	案3	案4	案5	考え方
教育基本法	○	○	○	○	○	
国の第4期教育振興基本計画	○	◎	◎	◎	◎	国の計画により近い表現
本市の第1次・第2次教育振興基本計画	◎	○	○	○	○	既存計画との継続性

【審議の論点(案)】

・厚木市の教育理念としてふさわしいか
・大人から子どもまで、全ての人が直感的に分かりやすい表現であるか

3 基本目標（案）

第2回部会の審議を踏まえ、次の案で検討を進める。

なお、検討に当たっては、「①自らのこと」「②他者との関係」「③社会との関係」の三つの視点を継続する前提で審議を進めるものとする。

案1『挑戦・共生・創造』（第2次から継承）

・第2回部会資料4の設定理由と同様

案2『挑戦・協働・創造』

・案1と同様

案3『挑戦・調和・創造』

・案2及び第2回部会の審議を踏まえ「協働」の代わりに「調和」を設定

案4『挑戦・協調・創造』

・案2及び第2回部会の審議を踏まえ「協働」の代わりに「協調」を設定

案5『挑む・つながる・築く』

・第2回部会資料4の『自らを育む・つながる・築く』の設定理由に加え、第2回部会の審議を踏まえ、「自らを育む」の代わりに「挑戦」と同様の意味を持つ用語を、他の二つの目標に併せた形で設定

案6『挑む・結ぶ・築く』

・案5の理由下線箇所と同様根拠に基づき、「自らを育む」、「つながる」の代わりに「挑む」、「結ぶ」を設定

案7『挑戦する・つながる・築く』

・案5の理由下線箇所と同様根拠に基づき、「自らを育む」の代わりに「挑戦」と同様の意味を持つ用語を、他の二つの目標に併せた形で設定

案8『ひら（拓）く・つながる・築く』

・案5の理由下線箇所と同様根拠に基づき、「自らを育む」の代わりに第1次計画で使用している「ひら（拓）く」を設定

案9『伸ばす・つながる・築く』

・案5の理由下線箇所と同様根拠に基づき、「自らを育む」の代わりに、国教育振興基本計画を踏まえ、ウェルビーイングを想起させる用語である「伸ばす」を設定

【三つの視点別】

案	①自らのこと	②他者との関係	③社会との関係
1	挑戦	共生	創造
2	挑戦	協働	創造
3	挑戦	調和	創造
4	挑戦	協調	創造
5	挑む	つながる	築く
6	挑む	結ぶ	築く
7	挑戦する	つながる	築く
8	ひら（拓）く	つながる	築く
9	伸ばす	つながる	築く

【各用語の主たる考え方】

三つの視点	用語	説明	国第4期教育振興基本計画 における記載
①自らのこと	挑戦・挑む・挑戦する	自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成	該当なし
	ひらく（拓く）	自ら学び、鍛え、未来を切り拓くためのたくましい力の育成	我が国の未来を拓く子供たちを育てる
	伸ばす	自らの可能性を広げ、学び続け、成長する力の育成	一人一人の能力・可能性を最大限に伸ばす教育を実現し、ウェルビーイングの向上を図る
②他者との関係	共生	自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成	誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会の実現 等
	協働	他者と学び合い、共に成長し、社会に貢献する力の育成	多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓く 等
	調和	社会の中で多様な価値観や文化を尊重し、バランスを保ちながら共に生きる力の育成	「調和と協調」に基づくウェルビーイングの考え方は世界的にも取り入れられつつあり、我が国の特徴や良さを生かすもの
	協調	他者と協力し、互いの力をいかしながら共通の目標に向かって取り組む力の育成	「調和」と同様
	つながる	他者と協力し、共に学び、支え合う力の育成	幸福感や自己肯定感、他者とのつながりなどの主観的なウェルビーイング 等

	結ぶ	多様な人やものを結びつけ、互いの良さをいかしながら、新しい可能性や価値を生み出す力の育成	該当なし
③社会との関係	創造	変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成	「創造」は主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を通じてもたらされるものである。これまでの計画の基軸を発展的に継承する 等
	築く	課題を解決し、新しい価値を生み出し、持続可能な社会を構築する力の育成	危機に対応する強靱さ（レジリエンス）を備えた社会をいかに構築するか 等

【アンケート調査結果（上位5位）との関係】

順位	アンケート項目	主に該当する視点	キーワード	主に該当する用語
1	周りの人と協力しながら、一緒に成果を上げる力を持つ人（協働力やコミュニケーション能力）	①自らのこと ②他者との関係	・ 協働	・ 協働 ・ 共生 ・ 調和 ・ 協調 ・ つながる ・ 結ぶ
2	健康を管理し、心と体を大切にできる力を持つ人（健康やウェルビーイングへの意識）	①自らのこと	・ ウェルビーイング ・ 健やか	・ 伸ばす
3	計画を立てて目標を実現する力を持つ人（計画力や自己管理能力）	①自らのこと	・ 計画 ・ 実行 ・ 自律	・ 挑戦 ・ ひらく ・ 伸ばす
4	新しいことに挑戦し続ける人（創造性や挑戦意欲）	①自らのこと	・ 挑戦 ・ 創造	・ 挑戦 ・ ひらく ・ 伸ばす ・ 創造 ・ 築く
5	社会で役立つ知識やスキルを活用することができる人（学校で学んだことを実生活で生かす力）	①自らのこと ③社会との関係	・ 活用 ・ 実践 ・ 応用	・ 挑戦 ・ ひらく ・ 伸ばす ・ 創造 ・ 築く

《案別の該当数》

案	①自らのこと		②他者との関係		③社会との関係		合計
		該当		該当		該当	
1	挑戦	3	共生	1	創造	2	6
2	挑戦	3	協働	1	創造	2	6
3	挑戦	3	調和	1	創造	2	6
4	挑戦	3	協調	1	創造	2	6
5	挑む	3	つながる	1	築く	2	6
6	挑む	3	結ぶ	1	築く	2	6
7	挑戦する	3	つながる	1	築く	2	6
8	ひら（拓）く	3	つながる	1	築く	2	6
9	伸ばす	4	つながる	1	築く	2	7

【比較表】

参照・考慮の 視点	案 1	案 2	案 3	案 4	案 5	案 6	案 7	案 8	案 9	区分の考え方
国の第4期教育振興基本計画	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	・国計画と基本的な方向性は合致 ・国計画との文言の整合性を考慮
本市の第1次・第2次教育振興基本計画	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	・基本的には継続性は維持されている ・文言の継続性を考慮
計画策定に係る児童・生徒アンケート調査	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	・基本的にはアンケート結果を反映できる

【審議の論点(案)】

- ・厚木市の教育目標としてふさわしいか
- ・大人から子どもまで、全ての人が直感的に分かりやすい表現であるか